

ペットの防災対策

— 家族とペットが災害を乗り越えるために —

災害に備えたしつけと健康管理

- ☑ ケージやキャリーバッグの中へ素直に入り、おとなしくいられる。
- ☑ 家族以外の人や動物を怖がったり攻撃的にならない。無駄吠えをしない。
- ☑ 決められた場所で排泄ができる。
- ☑ 定期的な健康診断と予防接種、寄生虫の駆除を行っている。
- ☑ 迷子札、マイクロチップなどで飼い主が分かるようにする。
- ☑ 繁殖させる予定のない動物は避妊・去勢手術を行うしておく。

これらの対策をしておくことで、避難した際にペットにかかるストレスが軽減されることにもなります。

大雨・洪水や地震などの災害時には、ペットもパニックになり、いつもと違う行動をとる可能性があります。もし、そんなときペットと離れ離れになってしまったら、無事に再会できるか分かりません。

災害時にペットを守ることができるのは飼い主だけです。家族とペットが災害を乗り越えるために、家族の災害対策と併せて、ペットの災害対策について考えてみましょう。

災害時にはペットを連れて避難することが基本

災害が発生し、逃げようとした時に飼い主の分からない犬がウロウロしていたら…。また、災害により離れ離れになっていた猫が大繁殖していたら…。ペットを連れて避難することは動物のためだけでなく、地域のみなさんの安全確保につながります。

三重県地域防災計画では、災害時には、飼い主自身が責任を持ってペットの管理を行うことを前提に、同行避難す

ることとされています。

同行避難とは、災害発生時に飼い主がペットを同行し、避難所まで避難することです。避難所で人とペットが同じ場所で居住できることではありません。また、爬虫類や野生由来の動物は、避難所で受け入れられないこともあるので、緊急時の預け先を確保しておく必要があります。

避難所には、動物が苦手な人やアレルギーのある人もいます。みんなが快適に生活できるよう話しあい、飼育ルールを決めましょう。

準備物

災害時にはペットの飼育に必要なものは基本的に飼い主が用意する必要があります。次の例を参考に、ペットの状態に合わせ必要となるものを準備しておきましょう。

☑ 餌、水

最低5日分、ドライフードだけでなくウェットフードも用意しておくことで水分補給になり、ストレスで食欲不振になった時の対策にもなります。

☑ ペットと飼い主の情報をもめた手帳等 迷子になったとき、写真があると便利です。

☑ ケージ、首輪、リード
避難所で放し飼いはできません。室内犬や猫を飼っている方は普段とは違う飼い方になりますので、事前に検討しておきましょう。

☑ 薬、治療食

ペットが病気などで治療中の場合は必ず用意しておきましょう。

☑ ペット用品

ペットシート、トイレの片づけに必要な物など

普段からのしつけ、健康管理が大切

東日本大震災や熊本地震の際には、避難所でのペットに関連するトラブルのほか、自宅に放置したり、ペットを放してしまったりしたことにより、多くの問題が発生しました。

ペットと安全に避難するためには、普段からキャリーバッグで寝かせたり、食事をさせたりして、キャリーバッグを落ち着く場所にしておくことで、ペットがパニックになりにくくなります。お気に入りのタオルや座布団などを使うのも効果的です。万が一、離れ離れとなってしまった場合に備え、普段から鑑札や迷

子札などをつけておきましょう。

また、周りに迷惑をかけるないように、家族以外の人や知らないペットがいても緊張しないように訓練しておくことも大切です。

避難所でペットが発情期を迎えてしまうと、そのペットだけでなく、他のペットも落ち着かなくなってしまうので、ペットのためにも、ぜひ避妊、去勢手術はしておくようにお願いします。

普段からのしつけや、予防接種などのペットの健康管理をしっかりしておくことが何より大事です。



熊野保健所
獣医師 尾崎由佳さん